

令和7年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果

4月17日(木)に行われた、全国及び岡山県学力学習状況調査の結果と分析についてお知らせします。

1年生平均正答率(%)			
教科	国語	数学	英語
全国平均	64.5	66.8	81.4
岡山県平均	64.3	67.1	80.5
津山市平均	63.1	65.2	79.5
加茂中学校	73.9	75.3	86.8
全国との比較	+9.4	+8.5	+5.4

2年生平均正答率(%)			
教科	国語	数学	英語
全国平均	65.0	53.6	51.3
岡山県平均	63.7	53.7	49.9
津山市平均	62.2	51.5	47.3
加茂中学校	74.7	69.0	77.1
全国との比較	+9.7	+15.4	+25.8
(// *1年時)	+3.4	+4.2	+5.8

3年生平均正答率(%) (理科はIRTスコア*)			
教科	国語	数学	理科
全国平均	54.3	48.3	503
岡山県平均	55.0	48.0	494~504
津山市平均	51.0	43.0	475~484
加茂中学校	54.0	55.0	528
全国との比較	-0.3	+6.7	+25
(// *2年時)	+7.6	+10.5	
(// *1年時)	-0.6	-4.1	

「質問紙調査」より(学年毎の肯定的回答)			
	1年	2年	3年
自分には、よいところがある。	89.4	71.4	84.7
将来の夢や目標を持っている	100	90.5	92.3
学校は楽しい	100	85.7	92.3
平日の学習時間(1時間以上)	79.0	66.7	73.1
携帯電話・スマホやコンピュータについて、家の人との約束を守っている。	79.0	71.4	63.0
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	79.0	90.5	92.3

*3年理科は、CBT(コンピュータ使用型テスト)で実施し、IRT(異なる問題から構成される調査の結果を同じものさしで比較する)に基づいたスコアを掲載しています。

調査結果から

成果

- ・「振り返りのスパン(短期・中期等)の工夫」を行って、既習事項の定着に努めたことで、基礎基本を問う問題の正答率が向上した。
- ・全教科で「2つ以上の事象(図と文章等)を関連づけて思考する問題への挑戦」をすることで応用問題に対応できるようになった。
- ・学校全体で取り組んでいる「学校を生徒とともにつくる活動」(授業観を生徒と共有して研究協議に生徒が参加、生徒会活動の「自治」等)が生徒の主体性を育み、学習意欲が高まったことで学力向上につながった。
- ・「家庭学習時間」は、県と比較した際に有意に多い傾向が見られた。課題主体から自主学習主体への転換を図る取組を推進しており、生徒が自ら「自主学習=やるのは自由」という認識を払拭するため、生徒会主導で自主学習の名称を「のびしろ学習」と改名した。目的をもって自主学習に取り組んだことで「提出することが目的とならない家庭学習」が意欲的に行われ、家庭学習時間の増加傾向が見られた。

課題

- ・国語では「画数が多い漢字や同音異義語を正しく書く力」「表現の効果について、根拠を明確に考える力」に課題が見られた。
- ・数学では、「与えられた文章題について、適切な立式ができる力」等、数学的な思考力に課題が見られた。
- ・英語では、「対話と資料から、必要な情報を把握して英文を選ぶ力」に課題が見られた。
- ・全体として、反復が必要な事項(定着が難しい事項)への対応が十分でなかったことや、振り返りの範囲で網羅できていない範囲があったことが課題の要因とみられる。
- ・「今、行っている取組の更なる深化」と「問われていることを正しく読み取る(聞き取る)こと」を求められる事項が多かった

今後の取組

1. 「既習事項の定着」を図る取組を創意工夫する。
 - ①既習事項を「忘れる」ことがないように、「振り返りのスパンの工夫」を継続する。
 - ②習得が難しい既習事項を定着させるため、意図的・計画的な課題設定を工夫する。
2. 「読み取る力」を育成し、応用問題への対応力を強化する。
 - ①問題文を最後まで読んだり、解き直しをしたりする「癖」をつける。
 - ②「事象と事象を結び付けて(図と文章を関連付けて等)考える力」を向上させる取組を今後も継続する。
3. 家庭と連携し、「やる気にさせる」家庭学習を推進する。
 - ①「提出することが目的とならない家庭学習」を実現するため、生徒が主体となって「加茂中の家庭学習は『課題2割』、『自主学習8割』」を合い言葉に、自主学習推進週間等を今後も行う。
 - ②習得することが困難な学習内容への対応のため、意識的・計画的に課題設定を工夫する。
 - ③クロムブックを活用した家庭学習を、より一層推進するための取組は今後も継続する。